【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	香　川　県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学　校　名	さぬき市立大川第一中学校					
学　　年	1　　年	2　　年	3　　年	特 殊 学 級	計	教 員 数
学　級　数	2	2	2	1	7	１７
生　徒　数	４３	５６	５５	3	１５７	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

個性を生かし，自ら学ぶ意欲を育てる学習支援の在り方
～　表現力を高め，生かす学習指導を通して～

２．研究内容と方法

（１）　実施学年・教科

・全学年，全教科
　全ての学年，全ての教科並びに教育活動において学習内容，学習方法の改善等を図り，総合的な学力の向上を目指すため。

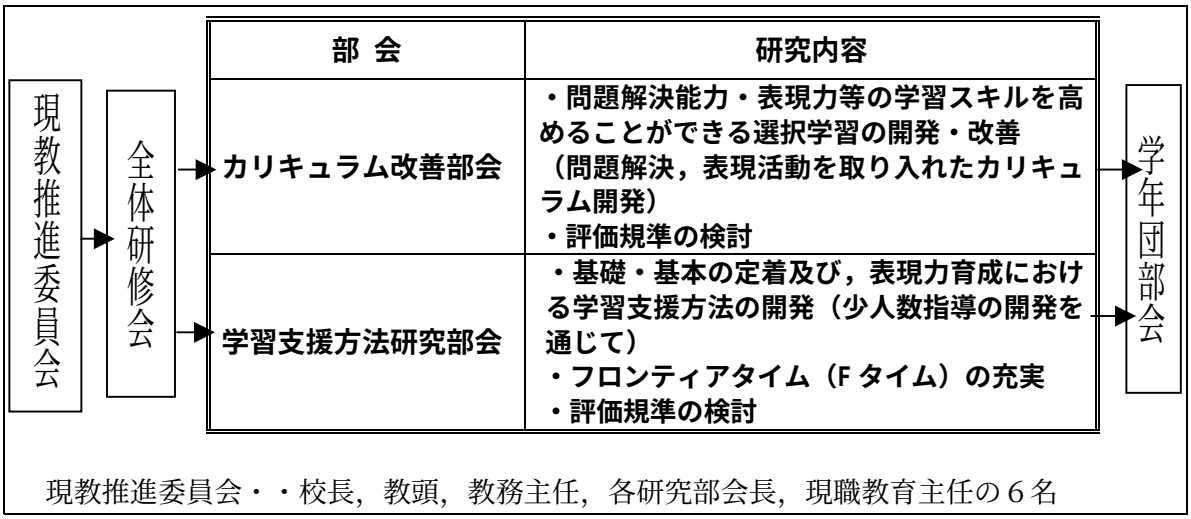
（２）　年次ごとの計画

平成１５年度	○　テーマ 個性を生かし，自ら学ぶ意欲を育てる学習支援の在り方 ～　表現力を高め，生かす学習指導を通して～ ○　研究の仮説 学力構造を明確にし，学習意欲を高めるとともに表現力育成を中核に置いたカリキュラムを開発し，実践すれば，基礎基本の確実な定着及び，自己教育力の育成や生涯にわたって主体的に問題を解決していくための力を育成できるだろう。 ○　研究内容・方法 ●　表現力の育成につながる教科，『総合的な学習の時間』の学習内容の改善 ・選択教科，『総合的な学習の時間』の学習内容の改善 ・発展・応用的学習のための教材開発 ●　基礎・基本の定着につながるカリキュラム，指導方法の改善 ・数学，理科における少人数指導の工夫 ・必修教科における指導方法の改善 ・マスタリーラーニングの手法を用いた学習の時間の充実（フロンティアタイム） ・自ら学ぶ意欲を高める評価方法の確立（自己評価力の育成） ・基礎学力の向上を目指した読書活動の充実

	○　テーマ 個性を生かし，自ら学ぶ意欲を育てる学習支援の在り方 ～　表現力を高め，生かす学習指導を通して～ ○　研究の仮説 学力構造を明確にし，学習意欲を高めるとともに表現力育成を中核に置いたカリキュラムを開発し，実践すれば，基礎基本の確実な定着及び，自己教育力の育成や生涯にわたって主体的に問題を解決していくための力を育成できるだろう。 ○　研究内容・方法 ●　表現力の育成につながる教科，『総合的な学習の時間』の学習内容の改善 ・選択教科，『総合的な学習の時間』の学習内容の改善

平成16年度	・発展・応用的学習のための教材開発, ● 基礎・基本の定着につながるカリキュラム，指導方法の改善 ・選択教科の学習内容の改善 ・必修教科における指導方法の改善 ・数学，理科における少人数指導の工夫 ・マスタリーラーニングの手法を用いた学習の時間の充実（フロンティアタイム） ・自ら学ぶ意欲を高める評価方法の確立（自己評価力の育成） ・基礎学力の向上を目指した読書活動の充実

（３）研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究成果及び今後の課題

１．研究の成果

（１）学力構造の明確化と各カリキュラム間の関連性の見直し

学力をバランスよく，効率的に向上させるために，各実践が相互に関連し，高め合う必要性が考えられる。そこで，ねらうべき学力の構造を明確にし，各カリキュラム内容と関連づけを基に，研究を進めた。

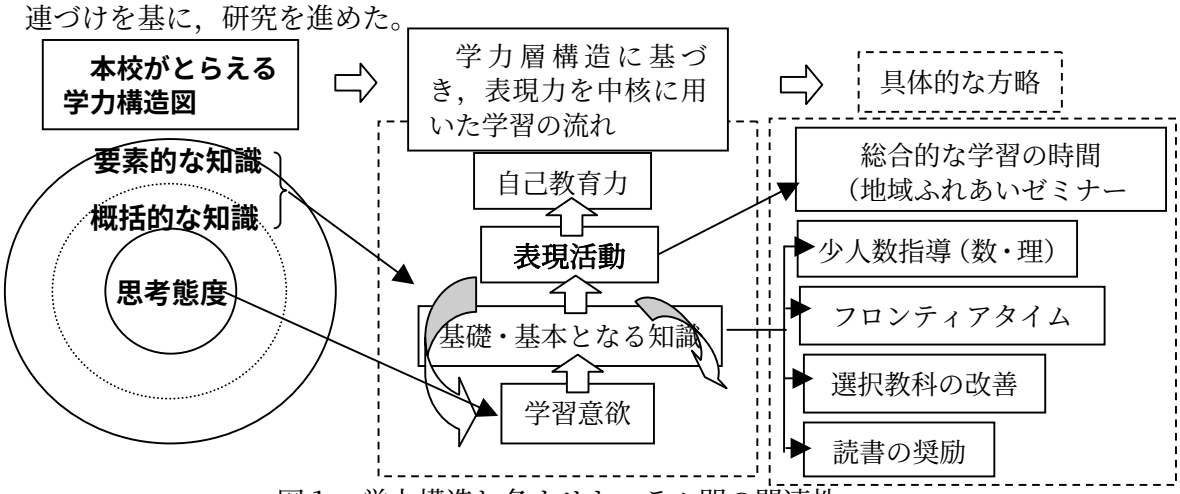


図１　学力構造と各カリキュラム間の関連性

（２）選択教科,『総合的な学習の時間』の学習内容の改善

選択Ａ（国，社，数，理）は基礎・基本の定着を徹底するための再履修型の学習を前半に行い，後半は個性の伸長を図るとともに表現力の育成をねらった発展・応用学習を中心とした学習内容に改善した。選択Ｂは生徒の興味・関心を生かすとともに，生徒のよさを一層伸ばす学習内容に改善し，学習を進めた。

全教科とも，現時点においては，基礎・基本の定着を目指し，補充教材に力を入れ作成し，着実な実践を行っている。

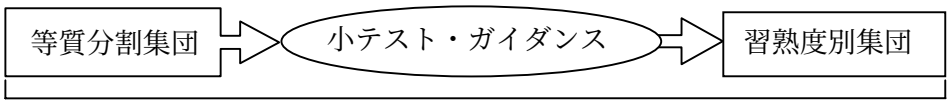
「総合的な学習の時間」は，地域を見つめ（１年），地域に学び（２年），地域に発信（３年）をテーマに学習内容を改善するとともに，学習発表会を充実させた。

（３）数学，理科における少人数指導の工夫

①　学習集団編成の工夫

数学，理科において，習熟度別少人数指導を実施した。習熟度別を導入するのは初年度ということもあって，図１のような集団編成を行った。

学習集団の決定については，小テストやガイダンスを通して，生徒には情報提供を行うが最終的には本人の意志を尊重した。



（１単元のスパン）

図１　少人数指導における学習集団編成について

②　少人数指導の効果について

少人数指導に対する生徒の評価について，図２～４及び表４のような結果が得られた。

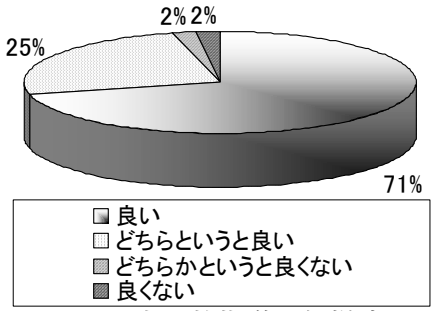


図２　少人数指導の好嫌度

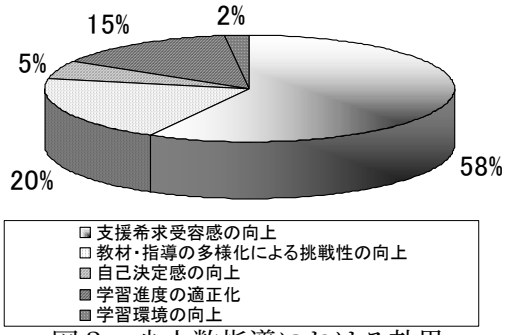


図３　少人数指導における効果

少人数指導に対しては，全校生（156 名）の96%が好意的にとらえており，今後も継続については，98%が希望するといった結果が得られた。

また，少人数指導の効果については，生徒から得られた自由記述をカテゴリーに分類したところ，58%が「人数が少ないので質問しやすくなる」「いつもよりヒントが細やかでやる気が出た」などと，少人数指導によって教師に対する支援を求めやすくなったことを効果とする「支援希求受容感の向上」を，20%が「僕は発展をとったが，一つ高いレベルの問題ができた」など，教材や指導方法が自分のレベルにあっており，挑戦する意欲が高まったという「教材・指導の多様化による挑戦性の向上」という結果が得られた。

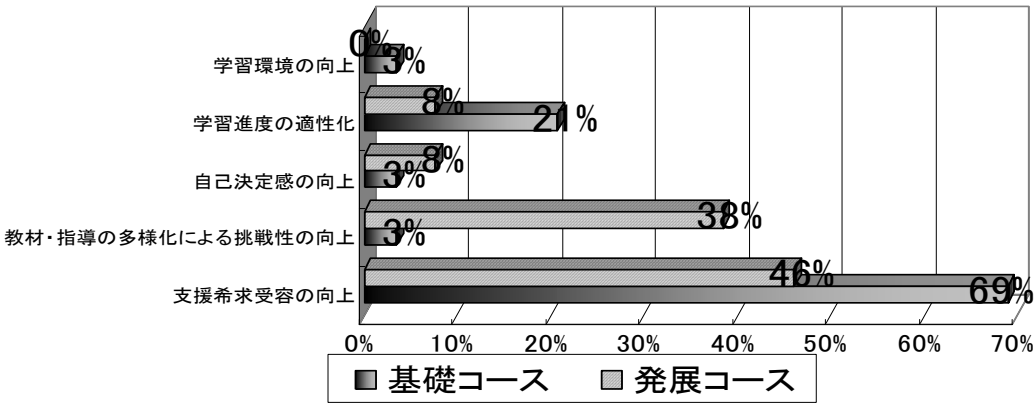


図４　各コースにおける習熟度別指導の効果

習熟度別指導における各学習集団での効果については，図４のように差異を見いだすことができた。

「基礎コース」においては，69%の生徒が「支援希求受容感」を，自分の学習に対して効果があったと指摘しており，学習が苦手な生徒にとって，従来まで自己の学習の進展を妨げてきた「つまずき」を，教師への質問や支援によって速やかに取り除かれ，理解が進むこと

に喜びを感じているものと判断できる。

一方，「発展コース」については，「教材・指導の多様化による挑戦性の向上」が第一の効果としてあげられた。これは，自分のレベルに応じた教材が提示されることで知的好奇心が刺激され，挑戦する意欲が向上することで，従来よりも学習が楽しく感じられたものと考えられる。

習熟度別少人数指導は，各コースの生徒に対して多様な効果を与える結果となっており，個に応じた支援を具現化する一つの手だてとして効果的であるものと考える。

また，少人数指導を参観した保護者等からも，表１，図５のような意見が得られ，受け入れられていることが明らかとなった。

- 少人数指導は，自分の能力にあった授業がうけられるので，わからない所など改善できるのでいいと思います。
- 少人数指導は，成績向上につながっていたようだ。
- 少人数の方が，丁寧に個々を把握できているので良いと思います。
- 我が子は，数学が苦手なので少人数だと先生との関わりも容易になり，効果があるといっています。
- 「わかりやすい」と子どもから聞きます。他の教科でも実施していただけないでしょうか。

表１　少人数指導に対する保護者からの意見（一部抜粋）

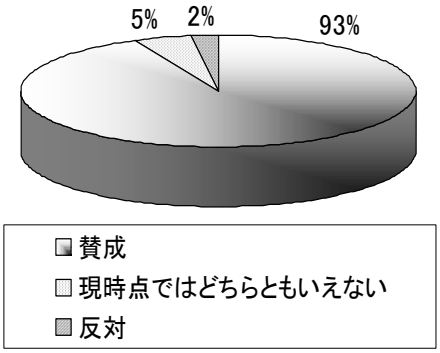


図５　少人数指導に対する保護者の意識調査

以上の取り組みの結果，学習状況調査で図６のように基礎学力の向上が見られた。

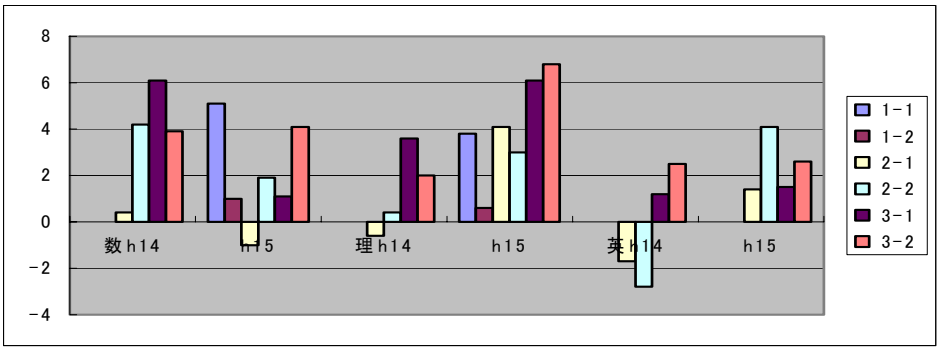


図６
学習状況調査結果一覧（数，理，英）

各学級と香川県平均との比較

（４）必修教科における指導方法の改善

少人数指導などの学習集団の改善にとどまらず，すべての教科において，教材の改善や小テストの実施などの指導方法の改善に取り組んでいる。

特に，社会科については，授業開始直後に，５分間テストを実施し，重要語句の定着化を図っており，定期テストにおいて，その成果が着実にあらわれてきている。

（５）マスタリーラーニングの手法を用いた学習の時間（フロンティアタイム）の充実

①　学習コースの設定

自己の学習状況をより客観的に診断し，主体的な学習習慣の定着と基礎・基本の徹底を目指して，金曜日の６時間目に学校裁量の時間を活用してフロンティアタイム（以下，Ｆタイムとする。）を本年度新設した。

主たる学習活動は自習の時間であるが，図７の構想に沿って，検定試験を導入し，実施している。

コース設定については，４教科（数学２コース，英語１コース，理科２コース，トレーニングコース）の８コースによって構成され，指導体制は，生徒管理及び，添削担当と個別指導担当の２名によるＴＴで実施する。

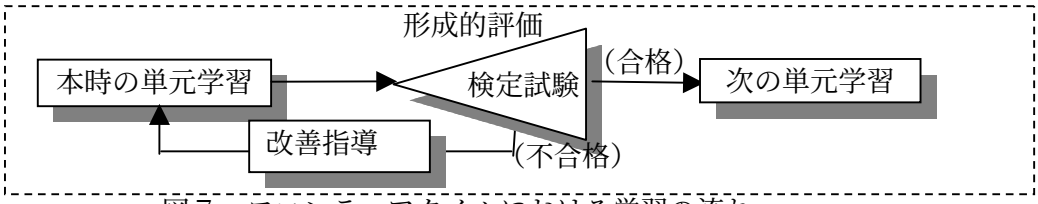


図７　フロンティアタイムにおける学習の流れ

② Ｆタイムの効果について

全校生１５４名を対象に，Ｆタイムの効果について調査を実施した結果を図７及び表２に示す。

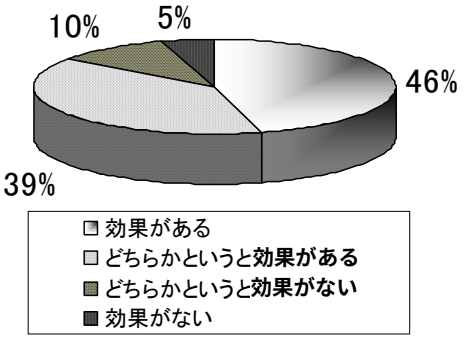


図８　Ｆタイムによる学習効果

カテゴリー名	人数			
	全校生	3年生	2年生	1年生
教師支援受容	30	11	11	8
主体的学習の確保	73	23	30	20
客観的評価機会の増加	14	7	4	3
学習達成感の向上	12	2	3	7
学習効率向上	12	1	5	6

表２　Ｆタイムにおける学習効果内容

Ｆタイムついては，図８のように85%が，自分の学習に何らかの影響があると述べており　，効果があることが明確となった。また，どのような効果であるかについては，生徒の意見をカテゴリーに分類した結果,「教科を選んで，自分で苦手なところを勉強したり、計画的に勉強を進めたりできるから」といった，主体的に学習を進める時間が確保され，自己の学習に効果が得られたことを第一にあげている。このことは，続いて効果としてあげられている「教師支援受容」という「先生に質問できるので」いう効果と合わせて考えると,「学校で分からない内容を先生の支援をうけながら，解決できる」ということにつながるのではないかと考える。

また,「客観的評価機会の増加」という効果については，検定試験を通して，より自己の学習状況が客観的に把握でき，それによって，自己の学習を進めることにつながっていることを効果としてあげている。

Ｆタイムに対する保護者の評価についても非常に肯定的な意見が寄せられており，家庭での学習改善につながっていることも明らかになってきた。

・　家庭学習が不得意なので，どんどんやって欲しいと思います。
・　Ｆタイムは子どもがすごく楽しんで学習しています。分からない事は，その場ですぐ質問できると楽しげに話してくれます。
・　理解できない科目を集中して受けられるのは，子どもにとって有意義です。続けてください。
・　本人はとても楽しみにしているようで，よかったのではないかと思います。
・　弱点克服のために，続けてほしいです。

表３　Ｆタイムに対する保護者からの意見（一部抜粋）

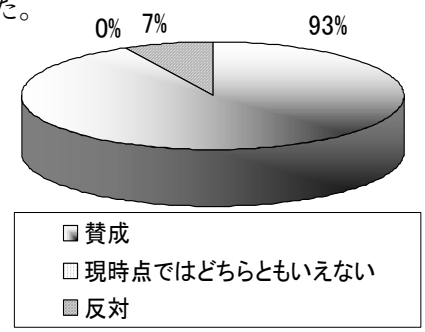


図９　Ｆタイムに対する保護者の意識調査

（６）自ら学ぶ意欲を高める評価方法の確立

「総合的な学習の時間」を進める際，中間発表会，学習発表会を設け，教師及び生徒間で学習進度をモニタリングする機会を設定した。　図９は，その際，活用する評価表であり，以下の２点に留意して作成した。

・学習活動において，評価規準を認識させる。
・モニタリング活動を通して，各自に評価規準を確立させる。中間発表会では，生徒間，学習発表会では，教師と自己との評価のズレを確認し，教師のアドバイスを通して，自己の中に客観的な規準を確立させ，学習意欲の向上につなげることができた。

	質　問　項　目	自分自身の評価	先生からの評価
①	やる気を持って取り組むことができた。	A	B
②	途中であきらめたり，やる気がなくなったりすることなく，がんばってやり遂げることができた。	B	B
③	自分の考えをしっかりまとめ，工夫して発表することができた。	B	C
④	積極的に質問したり，本・インターネットなどを使って情報を集めることができた。	B	D

図 10　自己の評価のズレを修正する評価の在り方

以上の取り組みを通し，学習したことを劇化するなど，創意・工夫した発表が見られ，内容面も含め，表現力の高まりが感じられた。

（７）基礎学力の向上を目指した読書活動の充実

学習を進める上で重要である，読解力や理解力を高めるため，以下の２点の改善を行い，基礎学力の向上に努めている。

- 朝自習の時間における読書時間の確保
- 全校読書の日の設置

その結果，読書習慣が身に付き，落ち着いた学習態度が見られるなどの成果があった。

２．今後の課題

（１）研究成果の評価方法

- 認知面の評価
- 発表会をもとにした外部評価

（２）指導・支援方法，教材開発

- 習熟度別少人数指導の改善
- 個性の伸長を図る教材開発

（３）研究運営面

- 研究組織，運営の工夫

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

（１）各教科独自の評価テストの作成

各教科，単元ごとにスモールステップ化した評価テストを効果的に実施し，生徒の変容をより客観的に把握していく。また，復習テストを行うなど継続的に生徒の変容をとらえる。

（２）学習状況調査の積極的な活用

数，理，英については県独自で行っている学習状況調査をもとに分析し，学力の向上や変容を把握する。また，生徒の学習状況や学力の変容を把握し，自己の学習に生かしてもらうため，ファイリングを行い，学活等で全校生単位，クラス単位，個別単位で指導をおこなう時間を設定する。

（３）学習意欲調査の実施

標準化された「自ら学ぶ意欲」（桜井，1998）を図る調査用紙を活用することを通し，知識偏重・注入の実践になることなく，ひずみのないバランスのとれた学力が形成されているかを確認しながら研究を進める。

（４）表現力の育成，変容の把握

学習発表会での生徒の活動をもとに表現力の向上について評価する。また作品展，各種コンクールでの作品や入賞状況から把握する。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

（１）　研究紀要を作成し，研究成果を広める。（学校のｗｅｂページにも記載予定）

（２）　少人数指導等の研究内容に関する公開授業，研究発表会を実施する。

（３）　学校外での研修会に置いて，研究成果について発表する（他県の学校関係者と交流が可能）。

（４）　『学年便り』『PTA 新聞』に研究成果を公表し，保護者に広める。

【新規校・継続校】	■１５年度からの新規校	□１４年度からの継続校		
【学校規模】	□３学級以下	□４～６学級		
	■７～９学級	□１０～１２学級		
	□１３～１５学級	□１６学級以上		
【指導体制】	■少人数指導	□ＴＴによる指導		
	□その他			
【研究教科】	■国語	■社会	■数学	■理科
	■外国語	■音楽	■美術	■技術・家庭
	■保健体育	□その他		
【指導方法の工夫改善に関わる配置の有無】	■有	□無		